

3年前、東京でのシンポジウムで50社近い大手企業や研究機関が発表する中、弊社も開発した新型排水装置を発表させて頂いた。開発のヒントは45年前の理科だった。一般家庭にもある灯油ポンプの原理でホースの口径が20センチ、電気不要の超大型排水装置「山辰サイフォン」だ。斜面崩壊により川をせき止めた天然ダムから水が溢れ決壊すると、土石流となって下流の人々の生命と財産を脅かす。中越地震での排水対策は水中ポンプを何十台と投入。毎日ヘリコプターでドラム缶50本



ヒントは中学校時代の理科

山辰組 社長 馬淵和三

の発電用燃料を、数カ月現場で実践に沿った技術間補給し続けたとの事。開発ができた。審査の結果、国交省ではこれを踏まえ、燃料消費を軽減するスカイツリーの建築工法大容量サイフォン排水装置と、超高層ビルを下部位置等の必要性を提言。弊社もこれを知り開発に着手した。国交省越美山系砂防事務所管内では、深層崩壊発生恐れがある渓流が多い。過去の天然ダム決壊では4名の方の尊い命が失われており、東横山地すべり災害など、毎年土砂災害が発生する地域だ。開発にあたり天然ダムに見たての砂防ダムとその周辺を実験フィールドとして協力頂けたため、

現場で実践に沿った技術開発ができた。審査の結果、GPSを使った東京スカイツリーの建築工法と、超高層ビルを下部から解体する工法で大手ゼネコンが優秀賞を受賞。これとは別に電気不要の新規性を特に評価頂き、この年だけの審査委員特別賞という身に余る栄誉を頂いた。地方からの新技術提案への励ましと受け止め深く感謝した。土砂災害など自然の力で発生する災害を人が防ぐのは難しい。だが起きた後の二次災害を防ぐ排水技術の一つとして社会に貢献できればと考える。